

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針

- 人格の完成をめざし、個性豊かな人間を育成する。

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感・充実感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 基礎学力を身につけ、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 規律やマナーを身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 健やかな体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路指導の充実

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、特色づくりを推進する教育課程を編成・実施する。
 - ア 生徒の実態を踏まえ、保護者・生徒の希望する進路がより実現できる（出口のみえる）教育課程を編成・実施する。
 - イ 保育専門コースにおける授業内容の充実、ピアノ技能の習得、保育検定取得率及び進学率向上をめざす。
 ※保育関連授業アンケートの肯定的回答率80%、バイエル習得率100%、保育検定3・4級取得率80%、保育系大学・短大等への進学率100%をめざす。
- (2) 教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着を図る。
 - ア 本校のめざす授業像である「わかる」「できる」「おもしろい」そして、規律ある授業を念頭に授業力の向上に取り組む。
 - イ 授業アンケートや教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、もって授業内容・指導方法の工夫・改善を図る。
 ※授業アンケートを年2回実施。授業公開週間（教員相互の授業見学・研究授業）を年3回（各学期1回）実施する。
 ※生徒の授業満足度の肯定的回答率について3年間で15%の向上をめざす。
- ウ 総合的な学習の時間「α」（1年次2単位）において、自己の学力に応じた学習に取り組ませることで基礎学力の定着を図るとともにきめ細やかな学習指導体制を確保する。
- (3) 進路指導に関する校内研修を通じて、教職員全体の理解を深めるとともに、3年間を見通した進路指導を実施する。
 - ア 生徒の希望する進路が実現できるよう学力生活実態調査を3年間経年実施することで自己理解力を高め、進路HRや進路ガイダンス、補習・講習等を組織的・計画的に取り組む。
 ※就職内定率100%を継続するとともに、進路未定率を現在の20%から3年間で10%に縮小をめざす。
 ※学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率について3年間で15%の向上をめざす。

2 生徒指導の充実（規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ）

- (1) 全教職員が一丸となった生徒指導の推進により、基本的生活習慣の定着・改善を図る。
 - ア 頭髪指導の継続・強化を図り、全員染色等なしを継続させる。
 - イ 服装指導の継続・強化を図り、服装違反者なしを実現する。
 - ウ 遅刻指導を継続実施する。※登校遅刻数について3年間で15%の減少をめざす。
 - エ 授業規律（授業遅刻、中抜けをはじめ、私語や立ち歩き、机上に不要物を置かせない等）を確保し、一時間一時間の授業を大切にさせることで基礎学力の定着を図り、中退・留年を防止する。
 ※授業遅刻、中抜けを3年間で15%の減少をめざす。※中退・留年者数について3年間で15%の減少をめざす。
- オ 月間教育目標を策定し、全校集会を月1回実施する。※3年間継続実施する。

3 地域連携と開かれた学校づくり

- (1) 地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。
 - ア 学校行事の活性化を図り、保護者・外部来場者数の向上を図る。※学校行事の保護者・外部来場者参加率について3年間で15%の向上をめざす。
 - イ 生徒会活動及び部活動の活性化を図り、入部率を高めるとともに地元小・中学校との部活動連携を推進する。※入部率について3年間で15%の向上をめざす。
 - ウ 地域連携を推進する。※地域連携交流数を年5回以上継続実施する。
- (2) 中高連携の推進（中学校との連携を密にし、不本意入学を防止する）
 - ア 生徒の出身中学校全校訪問を実施する。 ※年4回継続実施する。
 - イ 中高連絡会の定期的開催 ※年3回継続実施する。
- (3) 開かれた学校づくりの推進
 - ア 広報活動の積極的展開 ※メールマガジンの保護者登録数を3年間で15%の向上をめざす。※ホームページの充実を図る。（更新回数、週2回以上）
 - イ 学校教育自己診断の分析と学校改善方策（評価結果を学校協議会やPTAにおいて協議し、次年度の学校改善に反映させる。）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年11月実施分]	学校協議会からの意見
生徒回答率95.0%・保護者回答率57.9%・教職員回答率98% 【各項目に関する回答より】 ・保護者に対する情報伝達や教育方針の提供については保護者への教育方針の伝達（73.2%→71.1% ▼2.1%） 学校情報の提供（77.2%→72.5% ▼4.7%） 保護者の願いに対する努力（69.6%→68% ▼1.6%） 保護者への相談対応（76.8%→78.3% △1.5%） となっており、7割程度の保護者に理解を得ている。やや低下気味ではあるが、概ね例年並となっている。 ・授業については、生徒・保護者の回答より（生徒） 授業が分かりやすい（43%→51.3% △8.3%） 家庭学習をしている（23.6%→25.6% △2%） 少人数授業は分かりやすい（60.7%→65.7% △5%） 評価は総合的に行われている（69.3%→75.4% △6.1%） （保護者）	第1回【平成27年6月23日実施】 ○授業の様子について○ ・昨年よりも真面目に授業を受けており、また先生との人間関係やコミュニケーションが上手にとれている。学校の雰囲気が変わってきていることを感じる。 ・全教室に授業規律について掲示して、授業開始時に統一した方針で指導している。 ○生徒指導面について○ ・自己存在感、自己決定できる場、共感的人間関係形成の場の3点を柱として実施することが大切である。 ・女子のスカート丈の短さが気になっている。制服のマイナーチェンジも含め、保護者とより一層協力して継続した粘り強い指導をして欲しい。 ・短大に進学した場合には2年で社会人になる。短大でも入学当初からマナーについては厳しく指導している。「環境が人を育てる」ともいうが、生徒指導するためには教員もきちんとした言葉遣いを心がけ、「親しき仲にも礼儀あり」の精神を伝えていく必要がある。 ○スマートフォン指導について○

府立島本高等学校

授業が分かりやすく楽しい (47.9%→50.1% △2.2%)
 家庭学習をしている (30.1%→30.4% △0.3%)
 総合的に評価している (67.9%→76.9% △9%)
 となっており、授業改善が少しずつ効果をあげていると考えられる。反面
 教員の取り組みに対する回答として
 (教員)
 到達度の低い生徒に対する全校的指導 (94.2%→71.7% ▼22.5%)
 教材の精選・工夫を行っている (92.3%→83.3% ▼9%)
 指導方法を工夫・改善している (94.3%→91.7% ▼2.6%)
 となっており、成績不振者に対する指導や授業改善に対する工夫を更に進
 める必要がある。
 ・進路指導についての回答では、
 (生徒)
 進路についての情報をよく知らせる (61.6%→68.5% △6.9%)
 進路や生き方を考える機会がある (58.5%→62.7% △4.2%)
 (保護者)
 進路に対する適切な指導を行っている (74.8%→75.1% △0.3%)
 となっており、進路指導における取組が少しずつ浸透している。また、保
 護者からも75%と高い評価を頂いている。
 ・生徒指導に関する回答では、
 (生徒)
 生徒指導に納得できる (48.7%→53.3% △4.6%)
 (保護者)
 家庭との意思疎通をきめ細かく行っている (63.4%→63.3% ▼0.1%)
 生徒指導方針に共感できる (67.7%→65.6% ▼2.1%)
 (教職員)
 生徒の意見を日ごろから聞いている (91.3%→85% ▼6.3%)
 生徒や保護者の願いに応えている (84.6%→80% ▼4.6%)
 となっており、教職員の回答が昨年度より低くなっている。80%以上の結
 果ではあるが、更に生徒に寄り添いながら、生徒指導について理解、共感
 していきたい。
 ・学校行事に関する内容の回答としては、
 (生徒)
 楽しく行えるように工夫されている (61.8%→67.3% △5.5%)
 (保護者)
 子どもは積極的に参加している (80.7%→80.5% ▼0.2%)
 (教職員)
 魅力あるものとなるよう工夫・改善している (86.8%→88.4% △1.6%)
 となっており、少しずつ生徒会の取り組みとして、生徒に魅力あるもの
 として改善されつつある。今後も継続していきたい。
 ・生徒会活動及び部活動に関する回答では、
 (生徒)
 積極的に参加している (29.1%→29.4% △0.3%)
 積極的に部活動に取り組んでいる (43.8%→48.5% △4.7%)
 (保護者)
 生徒会活動は活発である (50.5%→53.3% △2.8%)
 部活動は活発である (50.3%→53.7% △3.4%)
 (教職員)
 生徒会活動を通じて全体で支援している (76.9%→68.3% ▼8.6%)
 部活動活性化に工夫している (71.2%→76.7% △5.5%)
 となっている。少しずつ上向き傾向にはあるが、特に生徒の項目に関して
 50%を超えられるようにしたい。
 ・人権尊重教育に関する回答では、
 (生徒)
 社会のルールについて学ぶ機会がある (58.4%→61.8% △3.4%)
 命や人権について学ぶ機会がある (56.8%→62.6% △5.8%)
 プライバシーが守られている (68.8%→72% △3.2%)
 (保護者)
 命を大切さやルールを守る態度を育成している (70.5%→68.9% ▼1.6%)
 人権意識を育てようとしている (65.1%→66% △0.9%)
 人権尊重の姿勢で指導している (67.2%→68.9% △1.7%)
 個人情報を守られている (86.4%→87% △0.6%)
 ほぼ昨年度よりも向上している。今後、更に人権教育を推進し生徒に関し
 ては70%の生徒が人権を意識できるようにしたい。
 ・教職員のアンケート結果より、
 創意工夫した総合的な学習の時間を実施 (73.1%→41.7% ▼31.4%)
 校則について適切であるか話し合う機会がある (80.8%→58.3% ▼
 22.5%)
 進路指導をきめ細かく行っている (92.3%→76.7% ▼15.6%)
 社会規範や道徳意識を育んでいる (76.9%→60% ▼16.9%)
 参加型人権教育など参加型指導を行っている (67.3%→56.7% ▼10.6%)
 学校運営に教職員の意見が反映している (82.7%→71.6% ▼11.1%)
 分掌間連携が円滑で有機的である (71.2%→55% ▼16.2%)
 教育環境が整備されている (69.2%→55% ▼14.2%)
 授業等でICT機器が活用されている (73.1%→56.7% ▼16.4%)
 適性・能力に応じた人事により意欲的に取り組める (63.4%→80% △
 16.6%)
 研修・研究の成果を伝える場がある (50%→60% △10%)
 学校のHPが情報提供として活用されている (84.7%→96.7% △12.1%)
 保護者や地域の人と接する機会がある (82.7%→96.7% △14%)
 昨年度よりも大幅に数値を落とした項目もある。特に教職員間での意思疎
 通の場が少なく、学校全体としての取り組みに欠如する傾向がある。今後、
 改善していきたい。反面、地域連携や情報発信等に関しては、大幅に向上
 した項目もある。これらに関しては、数値を維持しながら、更によりよい
 ものにしていく必要がある。

・使わないことで家族との会話が増えるので、保護者と協力して指導することも方法とし
 てはあり得る。
 ・塾へ通っている場合には小学生から持たせている家庭もある。リスクがあるのは確かでは
 あるが、持たないという指導は難しい。保護者がしっかりとした意識を持って、家庭内
 でルール作りをする必要がある。
 ・LINEからいじめに発展するトラブルがある。スマートフォンについては、保護者よりも
 生徒の方が知っているケースが多く、セキュリティやアクセス制限など保護者が勉強して
 いく必要がある。場合によっては、PTA講習会の実施などにも必要である。
第2回【平成27年11月27日実施】
○化粧について○
 ・日常的に化粧をしているとそれが当たり前になり、入試の際にも化粧をしてきて受験し
 ている生徒も見受けられる状況がある。指導が必要ではないか。
○学校教育自己診断について○
 ・「学校へ行くのが楽しい」や「気軽に相談できる先生がいる」という質問では1年生で肯
 定的な意見が低くなっているが、分析をしていく必要性を感じる。
 ・中学校側でも目的意識を持って進路選択させているのかを再確認していく必要性を感じ
 る。
 ・生徒会活性化に向けて、更に推進していくことを期待している。
 ・保育専門コースでは、職業人としての保育士であるために、子どもの顔を思い浮かべな
 がら指導できるような資質を身に付けるべきである。また、絵本の見せ方など実際の現場
 と同じような指導を心がける必要がある。
 ・プリントが散逸するなどは大学や短大でも同じ状況はあるため、ファイリングなどの工
 夫をしてみようか。
 ・能動的に行うような項目については肯定的な回答が低いと感じる。自ら進んで取り組む
 生徒が少ないように感じる。授業等で成功体験を取り入れながら活動的な授業にしていく
 必要があるのではないか。
 ・以前と比べて授業で寝ている生徒は少なくなった。「自分で考えられるような」課題を与
 えた指導を考えてもいいのではないか。
 ・保育専門コースでも淡々と授業を行うのではなく、地域との交流を考えていく必要があ
 る。地域貢献することで自己肯定感も育成することができるはずである。
○その他○
 ・保育専門コースでは子どもの目線で考えることを大切にし、子どもの気持ちを理解でき
 るように育成して欲しい。
 ・進路指導に関しては、就職してからのことを考え、社会人としての意識づけを行うため
 の工夫をしてみようだろうか。社会人から実際の厳しさや心構えを聞く機会を設けて
 もいいのではないか。
 ・小学校では実際に保護者に仕事の話をしてもらうことがある。保護者と連携してもいい
 のではないか。
 ・第三者から仕事の大変さを教えてもらう機会を設けてもいいのではないか。
第3回【平成28年1月27日実施】
○学校教育自己診断の結果について○
 ・保護者の結果より3年間ですこしずつよくなっている。皆さんの意識も更に向上できる
 ようになって欲しい。
 ・教職員の結果で数値変動が非常に大きいように感じる。
 ・予習や復習を家庭で行うことで、「予習したから分かった」や「復習したから点数が取れ
 た」などの反応が出てくるので、家庭での予習・復習をしていない点からの見直しが必要
 である。
 ・家庭学習をしないのは中学校での課題でもある。また、保護者の行事評価や学校方針や
 情報提供がなされているという数値が高いのはすごい。
 ・行事等への保護者の参加が少ない。また、記述による意見を見ると、頭髪指導等に対す
 る指導が厳しいなどの評価もあるので、保護者にしっかりと理解してもらえようにした方
 がよい。
 ・学校としては、しっかりと規則を守らせる指導を行うべきで、校則についても生徒に理
 解させていく必要がある。
○学校協議会傍聴について○
 ・ポケットベルに関しては現在使用頻度が少ないので、スマートフォン等の文語に修正し
 た方がよい。
 ・施行は平成28年1月27日で了解。
○学校評価・学校経営計画について○
 <平成27年度学校評価(案)について>
 ・HPを見ても保育専門コースで特色を出しているのはいいことであるが、今後大切にな
 るのは見える形での結果だと思う。1年からのキャリア教育も含めて取り組む必要がある。
 ・達成感を感じられるような授業作りをしていく必要性を感じる。
 ・生徒指導面で落ち着いた分、どう進学指導等にシフトしていこうかと苦労している面が
 伝わる。保護者の中では進学指導を手厚くして頂いていると評価している声も聞こえる。
 ・3年間で本当に島本高校は変わってきて、もう3年間いさせたいくらいであり、頑張っ
 ている印象がある。
 ・アクティブラーニング等のことも記載しているが、中学校でも少人数展開ではグループ
 にしてもリーダーが存在しない場合がある。また、課題を変えて少人数授業を行っても評
 価という壁が出てきて苦慮している。
 <平成28年度学校経営計画(案)について>
 ・抜本的な改革を行っていくのは難しいかもしれないけれども、在校生はもちろん入学を
 考えている生徒に対しての取り組みも考えていく必要があるのではないか。
 ・保育専門コースに関しては、細かく取り組みに入っている。
 ・生徒指導が落ちていて進学や進路への取り組みにシフトしようとしている苦労がよくわ
 かる。講習や補習等についても、取り組みに入れられている。
 ・地域連携に関して、多くの取り組みをしているが、地域の人たちには知られていない活
 動がほとんどである。もっと広報を頑張った方がいい。
 ・平成34年度からの新学習指導要領のことも記載されているが、大学入試等も変革してい
 く。この点もにらんで考えていく必要がある。
 ・高校生が今できることを考えていく必要がある。生徒会中心でいろいろ取り組んでもい
 いのではないか。
 ・学校説明会等も聞きたいのは生徒の生の声である。その声が聞こえるような工夫をして
 行って欲しい。
○その他○
 ・地元銀行の取り組みへの同窓生の参画により、学校にゴミ箱の寄付があった。
 ・学校教育環境や部活動指導の一環として同窓会にも応援をお願いしたい。

府立島本高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と進路指導の充実	(1) 新学習指導要領を踏まえ、特色づくりを推進する教育課程を編成・実施する。 ア 教育課程の改善	ア・生徒の実態を踏まえ、保護者・生徒の希望する進路がより実現できる(出口のみえる)教育課程を編成・実施する。	ア・今後2年間で教育課程(7コース制)を見直す。	(1) ア 平成28年度入学生においては、保育専門コースを含めて7コースだったものを5コースに再編し、コース名も変更し、外部から分かりやすい名称に改めた。また、保育専門コースに関しては、外部における実習を単位として認定するよう組み直しを行った。平成29年度入学生に関しては、総合的な学習の時間に関して、1年2時間・3年1時間だったものを各学年1時間ずつに変更することで、系統的にキャリア教育を行えるように改編した。(○)
	イ 保育専門コースの充実	イ・保育専門コースにおける授業内容の充実、ピアノ技能の習得、進学率向上をめざす。	イ・本校独自のピアノグレード表によるバイエル習得率100% (平成26年度100%) ・保育専門コース受講者の保育系大学・短大等への進学率100% (平成26年度91%)	イ ピアノⅠ及びⅡ及び講習や補習を通じて、バイエル習得率100%を維持した。(○) 保育専門コース生徒の保育系大学や短大への進学率は61%であった。(△)
	(2) 教員の授業力の向上、生徒の基礎学力の定着を図る。 ウ 授業力の向上	ウ・本校のめざす授業像である「わかる」「できる」「おもしろい」そして、規律ある授業を念頭に授業力の向上に取り組む。 ・授業アンケートや教員相互の授業見学・研究授業を充実させ、授業内容・指導方法の工夫・改善を図る。 ・課題を抱えた生徒を引きつける魅力ある授業づくりのための指導法研究等、教員間でノウハウの蓄積と共有を図る。 ・生徒の授業満足度の向上を図る。	ウ・授業アンケートの年2回実施。 ・授業公開週間(教員相互の授業見学・研究授業)を年3回設ける。 ・生徒の授業満足度の肯定的回答率年間5%増。	(2) ウ 授業アンケートに関しては、計画通り2回実施し、授業公開週間も各学期1度ずつの計3週行った。また、加えて学校協議会を授業公開週間に合わせて実施することで、学校協議員からも講評を頂けるようにした。(○) 授業アンケートにおける授業満足度における肯定的な回答は7月81.2%、12月83.0%(平成26年度7月80.6%)、12月82.2%)であった。また、授業支援会議において2度の外部講師による研修機会を設けた(「授業のユニバーサル化」「アクティブ・ラーニング体験」)。外部視察として愛知県の2校を視察し、授業改善や基礎力定着のための授業工夫について学びを深め、職員会議で共有した。(○)
	エ 基礎学力の定着	エ・総合的な学習の時間「α」(1年2単位)を学び直しの時間と位置付け、教育産業のシステムを導入し、自己の学力に応じた学習に取り組ませることで基礎学力の定着を図る。	エ・学力生活実態調査D3ゾーンの割合を5%減。	エ 学力生活実態調査D3ゾーンの割合は51%であったが、回を重ねる度に上位層が減らないようにするための工夫は、もう一步踏み込んで行う必要があった。総合的な学習の時間における教育産業のシステムの活用については、愛知県の学校視察の内容を活かし、平成28年度には見直しを図ることで、より総合的な学びの場として修正していく。(△)
	オ きめ細やかな学習指導体制	オ・1年生7クラスを8クラス展開とし、30～35人の少人数学級編成を実施する。 ・少人数加配を配置された教科において、少人数展開授業等を実施する。 ・英数においては、習熟度別授業を実施する。	オ・7クラスを8クラス展開とした少人数学級編成の実施。	オ 1年生において7クラス募集のところ8クラス展開で行った。その結果、少人数で授業が行え、授業自体も落ち着いて行えるようになり、授業の中抜けも減少した。数学と英語においては習熟度別授業を行っているが、下位層の取りこぼしが多く、今後方法も含めて検討が必要な状況である。(○)
	(3) 進路指導に関する校内研修を通じて、教職員全体の理解を深めるとともに、3年間を見通した進路指導を実施する。 カ 進路指導の充実	カ・生徒の希望する進路が実現できるよう、学力生活実態調査を3年間経年実施することで自己理解力を高め、進路HRやガイダンス、補習・講習等を組織的・計画的に取り組む。 ・コース制選択へ向けてのガイダンス機能を充実する。 ・教職員の就職指導体制を強化し、就職内定率100%を継続するとともに、進路未定率を減少させる。 ・学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率向上をめざす。	カ・就職内定率100%の継続。 (平成26年度100%) ・進路未定率を現在の20%から15%に。 ・学校教育自己診断における進路指導面・充実の肯定的回答率を年間5%増。	(3) カ 就職内定率については、就職希望者56名中56名が内定(内定率100%)、学校紹介希望者51名中51名が内定(内定率100%)している。今後は就職者の定着率を追いかけることで、定着率をあげていく必要がある。また、進路未定者は8.2%となっている。(○) 学校教育自己診断における進路指導面での充実に関する肯定的な回答は68.5%(平成26年度61.6%:△6.9%)となっている。(○) 総合的な学習の時間の活用や進路HRを活用し、更なる向上を図る必要がある。生徒の進路実現を図るためにも、今年度は講習体制や補習体制の見直しまでは至らなかった。次年度に向け、講習や補習のあり方を再構築し、計画的に全ての教科で同一基準で実施できるように改めていく。(△)
キ 人権教育の推進	キ・人権HRを年度当初に計画し、生徒をどう育てるか協議のうえ、組織的・計画的に人権教育を実施する。	キ・学校教育自己診断(人権)の肯定的回答率5%増。	キ 学校教育自己診断では肯定的な回答が62.6%(平成26年度56.8%:△5.8%)となっている。全休人権学習ではSHINGO★西成さんの講話を行い、人のできる可能性を再認識することができた。しかしながら、3年間を見通した人権学習について協議するまでには至らず、今後課題を残した。学年主導ではなく、組織化して年度当初に計画を立てるように改善する。(△)	
ク 学習成果の公表による授業達成感の体得と表現力の向上	ク・各種検定の実施および資格取得。 ・授業での生徒作品の公開展示・公開発表を積極的に行う。	ク・公開展示・公開発表会の年4回継続実施。 ・英語検定や保育検定を実施。特に保育検定3・4級取得率80%。	ク 芸術祭を実施し、授業で行った美術や書道の作品展示を島本駅で実施できた。また、音楽については外部施設を活用して発表する機会を設けたことで、目的意識を高く持ち授業を進めることができた。(○) また、保育専門コースでは、オープンスクールに合わせ外部施設で発表会を行い、またクリスマスに合わせ保育園児を招いて催しを行うことで、充実感を持つことができた。(○) 各種検定に関しては、費用がかかることもあり積極的な受検までは至らなかったのが残念である。(△)	

府立島本高等学校

<p>2 生徒指導の充実（規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ）</p>	<p>(1) 教職員のベクトルを合わせる（全教職員が一丸となった生徒指導の推進により、基本的生活習慣の定着・改善を図る） ア 頭髪指導の継続・強化 イ 服装指導の継続・強化</p> <p>ウ 遅刻指導の継続実施</p> <p>エ 授業規律の確立</p> <p>オ 中途退学者等の減少</p> <p>カ 月間教育目標の策定および全校集会の毎月1回実施</p>	<p>(1) 全教職員による課題の共有化を図り、統一した指導方針にもとづく生徒指導体制を構築し、生徒の規範意識を高める。 ア・全員染色等なしを継続させる。 ・頭髪に染色等をおこなった生徒には、保護者と緊密に連絡を取り、改善されるまでねばり強く指導する。 ・段階を追った指導を行い、違反を繰り返す者には特別指導を実施する。 イ 服装指導を継続・強化する。セーター・カーディガン・ベストの色指定及び学校指定セーター類の改善に取り組む。</p> <p>ウ・教職員の共通理解を図り、全校一斉の遅刻指導（段階的指導）により、時間を守ることの大切さを徹底し、遅刻を許さない校風を確立する。 ・段階を追った指導を行い、遅刻がたび重なる者には、特別指導を実施する。</p> <p>エ・授業遅刻、中抜けの減少をめざす。 ・私語や立ち歩き、机上に不要物を置かせない等、授業規律の確保に努める。 ・言葉づかいははじめとするマナー指導の徹底を図る。 ・校門指導、廊下当番による校内体制の実施。</p> <p>オ・授業規律を確立し、授業を大切にさせることで基礎学力の定着を図り、中退・留年を防止する。 ・担任、教科担当が連携して生徒の出席状況を把握し、家庭との連絡を密にする。（生徒支援会議、年35回開催） ・出身中学校との連携に努める。（中学校訪問、中高連絡会） ・当該生徒の状況を把握し、転学等、高校卒業資格を必要とする生徒の進路実現を支援する。 ・SCを有効活用し、心のケアを充実させる。 ・外部機関との連携を密にする。</p> <p>カ・月間教育目標を策定し、全校集会を月1回実施する。標語は次のとおり。 ・自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を誉め称える場とする。 4月「遅刻をなくそう」生徒生活部 5月「あいさつをしよう」進路指導部 6月「授業を大切にしよう」学習情報部 9月「文化祭を成功させよう」行事企画部 10月「読書のすすめ」行事企画部 11月「健康管理に努めよう」生徒生活部 1月「生活規律を守ろう」生徒生活部 2月「人権について考えよう」生徒支援会議</p>	<p>ア・全員染色等なし。</p> <p>イ・服装違反者なし。</p> <p>ウ・登校遅刻の年間5%減（平成26年度11,470件）</p> <p>エ・授業遅刻、中抜けの年間5%減（平成26年度7,123件）</p> <p>オ・中退・留年者の年間5%減 ・生徒支援会議の開催回数、年35回 ・外部機関との定期的連携（年3回）</p> <p>カ・毎月1回の全校集会を3年間継続実施。</p>	<p>(1) ア 頭髪に関しては、始業式や終業式において若干の違反者はいるが、おおむね良好に推移している。家庭との間でも連絡調整を図れている状況である。特別指導の対象となった生徒は存在しない。（○）</p> <p>イ 服装については今年度入学生よりセーターとベストが指定となり、2・3年生も色指定によりスムーズに指導が行えている。着こなしについては、依然としてだらしなく着ている生徒もいるため、今後女子のスカート丈の指導も含めて改善していく必要がある。（△）そのため、平成28年度入学生より制服のマイナーチェンジを行い、着こなしやすい生地及び折り曲げのしにくいスカートに改善した。（○）</p> <p>ウ 遅刻については、全校での取り組みの成果もあり改善される方向にある。授業間遅刻に関しては、メロディーチャイムの効果もあり、ほぼゼロに近づいている。（○）登校遅刻に関しては、9,736名となり昨年度比で16.4%減少した。反面、大幅遅刻や欠席する生徒がおり、今後は妥協しない指導が必要になる。遅刻において特別指導となった生徒は延39名（平成26年度43名）であり、昨年よりも減少している。（○）</p> <p>エ 授業規律に関しては、大方机上にものを置かないようになってきているが、一部で指導に従わない事例もある。全教員が同じ指導をすることで、授業規律の確立を図る必要がある。（△）言葉遣いに関しては人権指導も含めて考える必要がある。意図せず粗暴な言葉を口にする事例もあり、場合によっては授業中の抜き出し指導も行っている。廊下当番がいることで、教科担当者は安心して授業に専念できている。（○）</p> <p>オ 出身中学校との連携に関しては、3回中学校訪問を実施することで、状況の把握に努めた。（合格者発表後、夏休み、1月）また、出身中学校との間での連絡会に出席し、本校から状況説明すると同時に、中学校からの聞き取りを実施した。（○）また、年度途中でも問題が生じた際には、事案毎に中学校からの聞き取りを行うことで、早期対応を図った。進路変更を希望する生徒に対しては、個別対応を基本として、十分な聞き取りと保護者面談を重ねることで、転学等の手続きを行った。なお、毎週行っている生徒支援会議において、生徒の情報を共有することで、欠席の多い生徒へ早めの対応を心がけた。（○）その結果、成績不振による中退者を除くと、中退者数は31名（平成26年度37名）、転学者数は15名（平成26年度24名）となり、昨年度と比較すると若干ではあるが減少した。SCとの連携についてもスムーズに行うことができた。特に施設等との連携においては、生徒との聞き取りが十分な効果を発揮した。SCによる研修も実施し、事例研究も進めることができた。（○）</p> <p>カ 月間教育目標については、全校集会の度に生徒に提示することができたが、生徒にしっかりと意識させるところまでは至らなかった。今後は、月間教育目標とリンクする形での何らかの取り組みを行っていく必要性を感じた。次年度に向けて、生徒に取り組みさせる企画も合わせて考えていきたい。（△）また、全校集会では校長のみならず、教頭からの講話も行うことで、視点を変えた話を行うことができた。（○）</p>
--------------------------------------	--	--	--	--

府立島本高等学校

<p>3 地域連携と開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 地域から愛され信頼される学校づくりを推進する。 ア 学校行事の活性化 イ 生徒会活動・部活動の活性化 ウ 保護者・地域との信頼関係構築</p> <p>(2) 中高連携の推進(中学校との連携を密にし、不本意入学を防止する) エ 中学校訪問の実施 オ 中高連絡会等の定期的開催</p> <p>(3) 開かれた学校づくりの推進 カ 広報活動の積極的展開 キ 学校教育自己診断の分析と学校改善方策</p>	<p>ア・学校行事の活性化を図る。</p> <p>イ・生徒会活動及び部活動の活性化を図り、新年度当初の新1年生全員による体験入部の実施により、部活動への加入率を高める。 ・地元小・中学校との部活動連携を図る。</p> <p>ウ・地域交流をさらに推進し、学校から地域への情報発信をより活発に行うなど、地域連携に取り組む。 ・授業公開(保護者や学校内外の人が常時授業見学できるようにする)の推進やPTA活動の活性化を図り、学校・家庭・地域が一体となり学校改善に取り組む。 ・地域清掃や校内美化を推進する。</p> <p>エ・生徒の出身中学校全校訪問の実施。 ・中学校との連携を密にし、不本意入学を防止する。</p> <p>オ・中高連絡会の定期的開催(年3回実施・対象地域の拡大を図る) ・塾への広報活動の強化 ・地元中学校への高校授業体験を年2回実施 ・授業公開週間(年3回実施)に中学校教員を招く</p> <p>カ・メールマガジンによる学校情報の伝達と保護者への登録の周知徹底を図る。 ・ホームページの充実(更新回数、週1回以上) ・学校説明会の実施(年5回)</p> <p>キ・毎年実施することで経年変化を把握し、学校改善に役立てる。 ・評価結果を学校協議会やPTAにおいて協議し、次年度の学校改善に反映させる。</p>	<p>ア・学校行事への保護者・外部来場者参加率の年間5%増 (平成26年度体育祭192人、文化祭612人) イ・部活動加入率の年間5%増</p> <p>ウ・地域連携交流数を年5回以上継続実施。</p> <p>エ・生徒の出身中学校全校訪問を年4回継続実施</p> <p>オ・中高連絡会の定期的開催(年3回継続実施) ・中高連絡会の対象地域の拡大。 (現在:高槻、茨木、摂津、吹田各市) (拡大:大阪市内(東淀川区、淀川区と西淀川区の一部) ・在籍生徒の出身塾への訪問10件、資料配付50件 ・地元中学校への高校授業体験を年2回実施 ・授業公開週間(年3回実施)</p> <p>カ・メールマガジンの保護者登録者数を年間5%増 (平成26年度登録664名) ・ホームページの更新回数、週1回以上 ・学校説明会の年5回継続実施</p>	<p>(1) ア 体育祭や文化祭においては生徒会を中心に生徒が主体的に準備等を行い、参加した保護者からの評価も高かった。(○)また、体育祭来場者は188名(昨年比▼4名:▼2.1%)、文化祭来場者は547名(昨年比▼65名:▼10.6%)となり、やや減少した。(△) イ 1年生の4月で部活動体験を実施し、参加者数はおおむね良好であり、年度当初の加入者数も1年生124名(昨年度比▼1名:±0%)となり、大きな変化は見られなかった。次年度に向け再度方法を検討する必要がある。(△)また、部活動も活発に行っている。地元小学校との間では島本町立第三小学校へは水泳部が水泳指導の一環として出向き、授業補助等を行った。(○) ウ 地域交流については、年間で計画的に推進し、「島本町YYワールド」「かぐや姫の夕べ」「島本町子どもまつり」「島本町夏まつり」「島本町内一斉清掃(7月及び12月)」「島本町文化祭」「青少年健全育成大会」「島本町清掃活動(1月)」「島本町立中学校における職業体験」「文化祭での人間将棋」など多岐に渡り交流を行った。(○)他にも「保育専門コース発表会」「芸術祭」についても地域広報紙へ掲示し広く観覧者を募って実施した。(○)公開授業については、年3週間にわたり実施、近隣中学校教員の参加もあった。(○)</p> <p>(2) エ 在籍する出身中学校訪問は年3回実施し、他に近隣市町村における協議会にも年2回参加することで、中学校との連携を図った。在籍する生徒の聞き取りや在籍状況を共有することで、今後の中退防止等に活かすことができた。(○) オ 近隣市町村との連絡協議会へは計画通り参加することができた。塾に対しては資料配布を行ったが、積極的な訪問はできなかった。(△)島本第一中学校及び第二中学校に対する高校体験は2回実施し、好評であった。次年度は実施する時期も含めて内容充実を図りたい。(○)公開授業は計画通り実施できたが、中学校教員の参加については思うような参加がなかった。今後改善する必要がある。(△)</p> <p>(3) カ メールマガジンの登録者数は750名(昨年比△86名:△12.9%)となり、積極的に情報発信を行った。また、第一学年では更にメールマガジンを活用した情報発信を行っている。(○)HPに関しても、古い情報の整理を行い、新しい情報を掲載できるように年度内で一度リニューアルを行った。オープンスクールにもHPを見て参加を考えた中学生が多数見られた。(○)概ね週1回の更新を行った。オープンスクールに関しては、年間5回計画し、順調に推移している。参加者数については、昨年度比で減少しているが、入試制度が変更になったことも影響していると考えられる。(△)参加している中学生や保護者には好評である。(○) キ 学校教育自己診断については、経年変化を把握するために、大幅な内容改定を行わずに実施している。教職員に関しては、質問項目が88項目と非常に多かったため、似通った内容の整理を行うことで、48項目に絞り込みを行い、回答しやすいように工夫を行った。(○)第2回学校協議会で議案として、2月までのPTA実行委員会でも提示し、意見を求めた。(○)</p>
-----------------------------	---	--	---	--